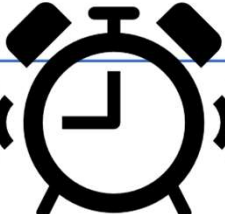


5分で読める！

豊田市の決算報告 ～令和6(2024)年度～



Child
Friendly
Cities
Initiative

unicef 
for every child

1 決算は収入と支出の実績を明らかにするもの

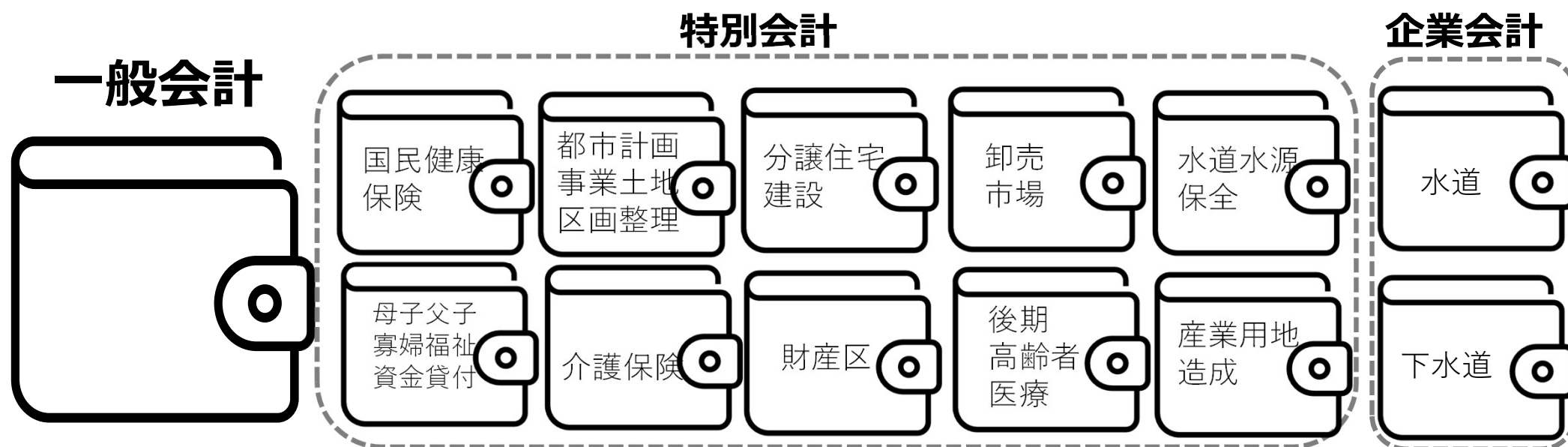
決算とは、1年間の収入（入ったお金）と支出（使ったお金）を整理し、その結果を明らかにすることです。

市の決算では、税金などの収入をどのように使って、市民や地域のための取組を行ったのかをまとめ、明らかにします。

2 豊田市の会計（お財布）は13種類

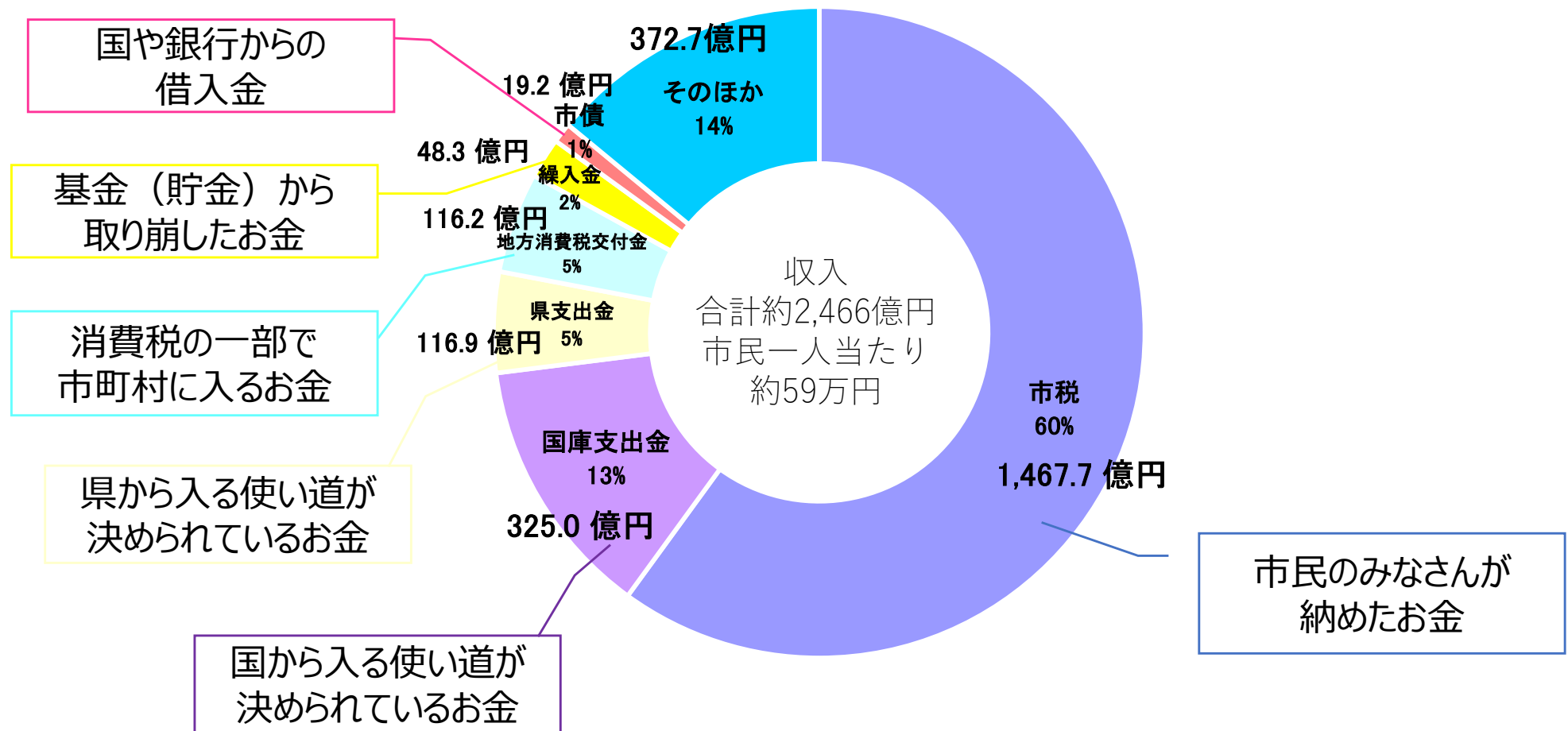
市のお金は、目的や使い道によって会計（お財布）を分けて管理しています。その中でも、市民全体に関わる基本的な行政サービスにかかるお金をまとめた会計が「一般会計」です。

そのほか、介護保険など特定の事業に使う「特別会計」、上下水道料金収入等で運営する「企業会計」があります。



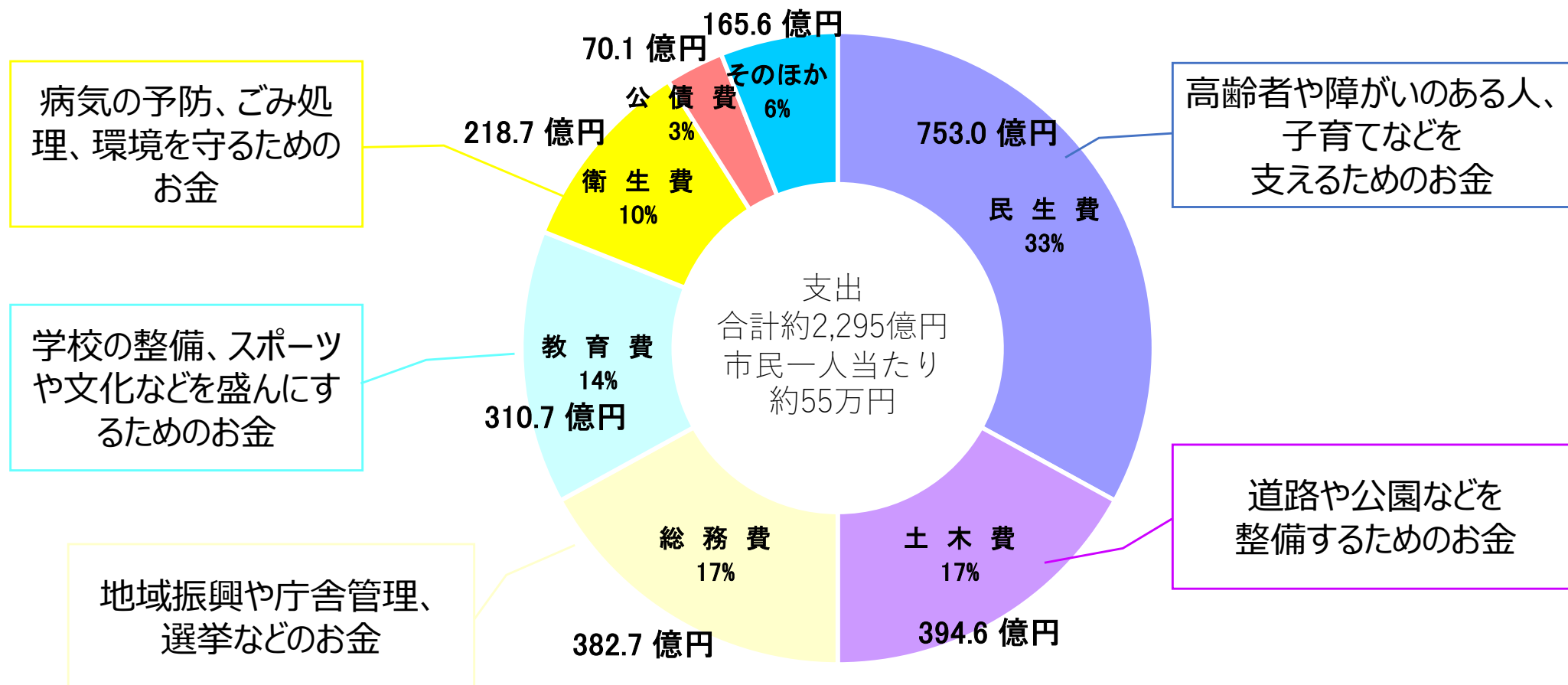
この資料では、豊田市の「一般会計」を中心に紹介します。

3 一般会計の収入は2,466億円



最も多い収入は「**市税**」の**1,467.7億**で、全体の**60%**でした。
「市税」は、市民のみなさんが納めた「**個人市民税（305.0億円）**」や、
市内に事業所がある法人が納めた「**法人市民税（548.2億円）**」、
市内に土地や建物などを持っている人が納めた「**固定資産税（449.6億円）**」などです。

4 一般会計の支出は2,295億円



支出の大きかった項目は、次のページから紹介します。

令和6年度は、**収入2,466億円、支出2,295億円で差し引き171億円**でした。差し引きで生まれたお金（黒字分）は、翌年度の事業や将来のためのまちづくりに活用します。

5 民生費（753.0億円）の特徴

高齢者や障がいのある人、子育てなどを支えるための民生費で、決算額が大きい上位5つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	児童手当給付費	71.3億円	9.5%
2	教育・保育給付費	58.5億円	7.8%
3	障がい者介護給付費	54.0億円	7.2%
4	物価高騰対応重点支援給費金給付費	45.4億円	6.0%
5	生活保護扶助費	39.6億円	5.3%

特徴!

物価高騰対応重点支援給付金給付費

エネルギー（電気やガス）や食料品の価格が高騰していることを受けて、特に支援が必要な低所得世帯等に対して、国庫支出金の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用して給付金を給付しました。



6 土木費（394.6億円）の特徴

道路や公園などを整備する土木費で、
決算額が大きい上位5つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	名鉄三河線若林駅付近連続立体交差事業	84.5億円	21.4%
2	都心環境計画推進基金積立金	36.0億円	9.1%
3	下水道事業負担金	23.6億円	6.0%
4	道路修繕費	21.6億円	5.5%
5	都心環境計画推進費	20.5億円	5.2%

特徴!

都心環境計画推進基金積立金

令和7年度以降の、豊田市駅整備事業の計画的な進捗を
図るために、基金に積み立てました。



7 総務費（382.7億円）の特徴

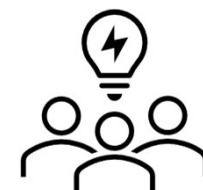
地域振興や庁舎管理、選挙などに使う総務費で、決算額が大きい上位5つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	地域づくり振興基金積立金	100.0億円	26.1%
2	財政調整基金積立金	81.0億円	21.2%
3	職員退職手当	14.8億円	3.9%
4	庁舎管理費	8.2億円	2.1%
5	情報システム基盤費	6.8億円	1.8%

特徴!

地域づくり振興基金積立金

地域自治システム（様々な地域課題に対して地域が自ら考え実行することのできる仕組み）の事業や、新たに地域からの要望に基づく課題の解決に向けた取組を迅速かつ確実に推進するために、基金に積み立てました。



8 教育費（310.7億円）の特徴

学校の整備、スポーツや文化などを盛んにするための教育費で、決算額が大きい上位5つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	体育館等暑さ対策費	39.0億円	12.6%
2	学校給食協会委託費	15.5億円	5.0%
3	文化振興財団運営費補助金	14.7億円	4.7%
4	中央公園費	12.6億円	4.0%
5	学校施設管理運営費	12.2億円	3.9%

体育館等暑さ対策費

特徴!



安全・安心で快適な教育環境を確保するため、学校の暑さ対策として、市内38校の体育館等に空調設備を整備しました。この暑さ対策事業は、令和6年度から2年間をかけて市内全校に整備をするもので、令和7年6月30日に全ての市立小中学校の体育館及び武道場への空調設備整備が完了しました。

9 衛生費（218.7億円）の特徴

病気の予防、ごみ処理、環境を守るための衛生費で、決算額が大きい上位5つは以下のとおりです。

順位	内容	決算額	比率
1	脱炭素社会推進基金積立金	50.0億円	22.9%
2	渡刈クリーンセンター費	33.3億円	15.2%
3	予防接種費	16.1億円	7.3%
4	ごみ収集事業費	9.8億円	4.5%
5	水道事業費補助金	9.0億円	4.1%

特徴!

脱炭素社会推進基金積立金

2050年度のカーボンニュートラル実現を目指し、CO₂排出量を2030年度に2013年度比50パーセント削減という目標を掲げる中、その目標達成に向けた取組をさらに加速させるための事業の財源とするため、基金に積み立てました。



10 第8次総合計画の事業も着実に推進

令和6年度は、第8次総合計画の最終年度でした。
重点施策に位置付けた実践計画事業を始めとする様々な事業を実施し、施策の推進を図りました。

1. 超高齢社会への適応

：官民連携介護予防「ずっと元気！プロジェクト」 など

2. 「ひと」と「しごと」が集まるミライへの投資

：こども園・幼稚園から中学校までの給食費無償化 など

3. まちの課題解決力の強化

：自治区のDX推進事業 など

一方で、税收の一部を活用した基金への積立てや、市債（市の借金）の発行を抑えるなど、将来に向けた財源の確保と健全な財政運営の両立を図りました。

1 1 収入と支出のバランスを保った財政運営

令和3年度は…

市税収入が減

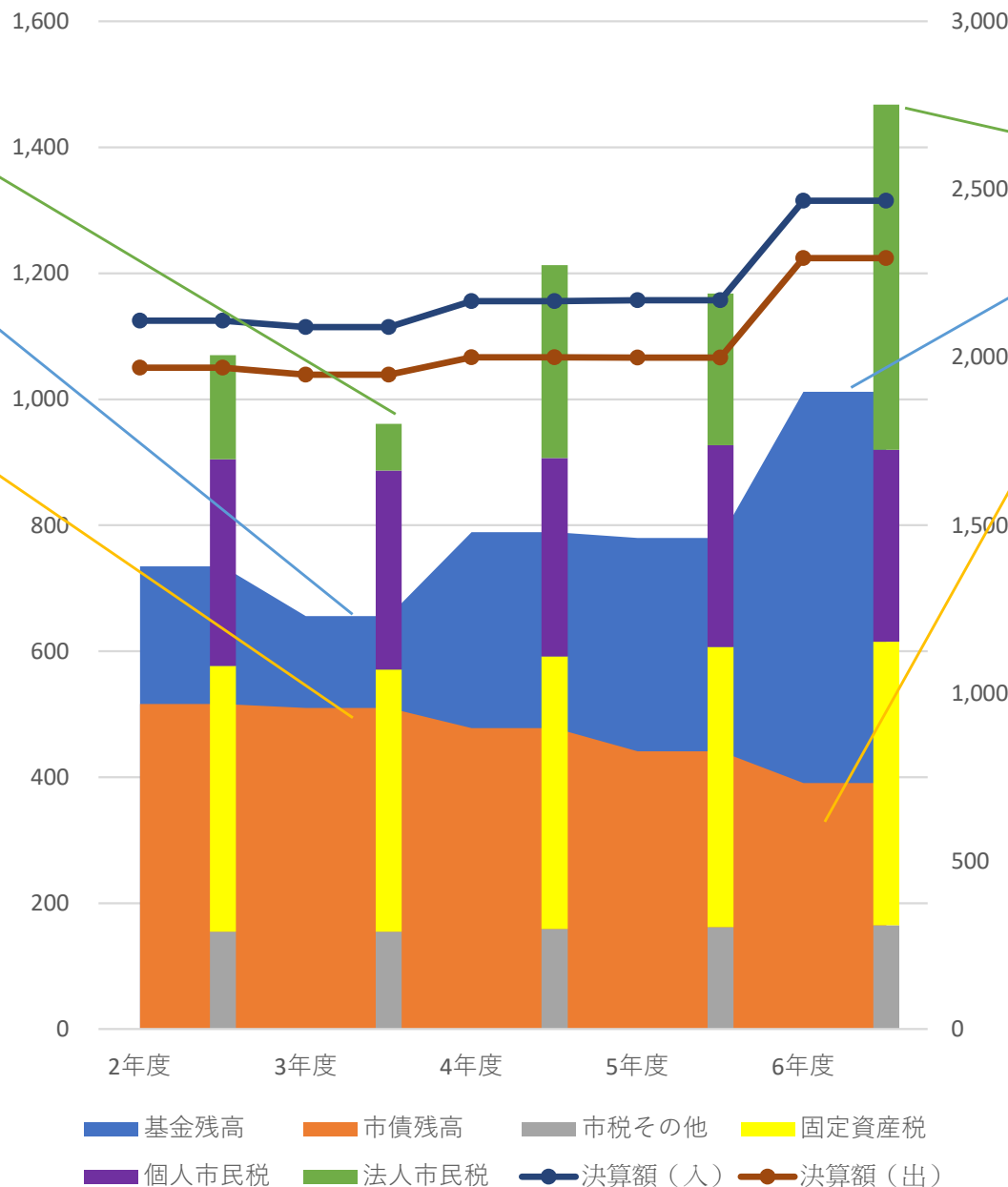
基金残高が減

市債残高が
横ばい



つまり…

令和2年度と同程度の
予算規模を確保する
ため、市税が減った
分を市債のみに頼ら
ず、基金を取り崩して
財政運営を行った、と
いうことが読み取れま
す。



令和6年度は…

市税収入が増

基金残高が増

市債残高が減



つまり…

市税が増えた分、
市債残高を減らし、
事業の財源確保のため
に基金への積立てを行
い、後年度の事業の着
実な推進に備えた年だ
った、ということが読み
取れます。

令和2年度決算額は、特別定額給付金給付費を除いた額

1 2 令和 6 年度のまとめと今後に向けて

令和 6 年度は、収入と支出のバランスを保ちながら、第 8 次総合計画の施策を着実に進めました。

また、物価高騰など社会情勢の変化にも対応しつつ、基金の積立てや市債の抑制を行うことで、安定した財政運営を維持することができました。

一方で、豊田市は税収の動きに影響を受けやすい特徴があるため、将来の支出や収入の変化を見据えて、基金を計画的に活用していくことが重要です。

社会や経済の環境が大きく変わる中でも、これまで築いてきた安定した財政基盤を生かし、第 9 次総合計画を着実に推進します。

予算執行実績報告書はこちらからご覧ください

<https://www.city.toyota.aichi.jp/shisei/yosan/1004779.html>

